

『君の名は。』（きみのなは、英: **Your Name.**）は、2016 年に公開された新海誠監督による日本の長編アニメーション映画である。上映時間 107 分

概要

前作『言の葉の庭』から 3 年ぶりとなる、新海の 6 作目の劇場用アニメーション映画。東京に暮らす少年・瀧（たき）と飛騨の山奥で暮らす少女・三葉（みつは）の身に起きた「入れ替わり」という謎の現象と、1200 年ぶりに地球に接近するという架空の彗星「ティアマト彗星」をめぐる出来事を描く。新海作品としては初めて製作委員会方式を取っており、前作は東宝映像事業部配給、全国 23 館だったのに対し、本作では東宝が配給を担当し全国約 300 館という大規模な興行となった。

ストーリー

東京の四ツ谷に暮らす男子高校生・立花瀧は、ある朝、目を覚ますと岐阜県飛騨地方の山奥にある糸守町に住む女子高生・宮水三葉になっており、逆に三葉は瀧になっていた。2 人とも「奇妙な夢」だと思いながら、知らない誰かの一日を過ごす。

翌朝、無事に元の身体に戻った 2 人は入れ替わったことをほとんど忘れていたが、その後も週に 2、3 回の頻度でたびたび「入れ替わり」が起きたことと周囲の反応から、それがただの夢ではなく実在の誰かと入れ替わっていることに気づく。性別も暮らす環境もまったく異なる瀧と三葉の入れ替わりには困難もあったが、お互い束の間の入れ替わりを楽しみつつ次第に打ち解けていく。

しかし、その入れ替わりは突然途絶え、記憶を頼りに描き起こした糸守の風景スケッチだけを頼りに瀧は飛騨に向かう。瀧の様子を不審に思い心配していた友人・藤井司とバイト先の先輩・奥寺ミキもそれに同行する。しかし、ようやく辿り着いた糸守町は、3 年前に隕石（ティアマト彗星の破片）が直撃したことで消滅しており、三葉やその家族、友人も含め住民 500 人以上が死亡していたことが判明する。

瀧は、以前三葉と入れ替わっている時に口噛み酒を奉納した記憶を思い出し、山上にある宮水神社の御神体へと一人で向かう。そしてその御神体が実在していたことで「入れ替わり」が自分の妄想ではなく、2 人の入れ替わりには 3 年間の時間のズレがあったことを確信する。瀧は、もう一度入れ替わりが起きることを願いながら、3 年前に奉納された三葉の口噛み酒を飲む。

目覚めると隕石落下の日の朝の三葉の身体に入っていた瀧は、三葉の友人である勅使河原克彦、名取早耶香の 2 人とともに、住民を避難させるために変電所を爆破し町一帯を停電させ、町内放送を電波ジャックして避難を呼びかけるという作戦を画策する。しかし、その計画の要である三葉の父・俊樹を説得しようとするが、妄言だと一蹴される。

避難計画が順調に進まず、瀧（身体は三葉）は、三葉（身体は瀧）に会うため御神体がある山に登る。生きている世界には 3 年の時間差がある 2 人だったが、時間を超えて聞こえる声を頼りに互いの姿を探すも、声だけで姿は見えなかった。しかし黄昏が訪れると互いの姿が見え、入れ替わりが元に戻り、初めて 2 人は時を超え直接会話することができた。

三葉は、瀧から住民を助ける計画を引き継ぎ下山する。計画通りに町を停電させ、避難指示の放送を流すが、その電波ジャックも町役場にバレて阻止され、避難は進まない。三葉は改めて父（町長）を説得するため町役場に向かう。

月日は流れ、瀧が「入れ替わり」という不思議な出来事に遭ってから 5 年後、「偶然にも住民が避難訓練をしており奇跡的に死者が一人も出なかった」糸守町への隕石衝突から 8 年後へと舞台は移る。瀧は就活の毎日、三葉たちは東京で暮らしていた。たまに町中でお互いの気配を感じることがあったが、もはや入れ替わりのことは忘れており、ただ「漠然と『誰か』を探している」切実な思いだけがあった。

さらに月日が流れたある春の日、たまたま並走する別々の電車の車窓からお互いを見つけた 2 人は、それぞれ次の駅で降り[注 4]、お互いの下車駅に向かって走り出す。ようやく住宅地の神社の階段で再会した三葉と瀧は、涙を流しながら互いに名前を尋ねる。